

## Guiding Principles Ethical Occupational Therapy (WFOT, 2024)

### 倫理的作業療法を導く原則

#### はじめに

作業療法士は、その専門性を他者のために活用することについて、社会に対して説明責任を果たさなければならない。説明責任を果たすためには、作業療法における仕事の指針となる原則、価値観、信条を、専門職のメンバー、作業療法を受ける個人、その他の人々に対して明確にしておく必要がある。

この文書の基本目的は、世界作業療法士連盟の倫理原則、価値観、信念の概要を示すことである。しかし、この文書は、加盟協会がそれぞれの地域の状況において独自の倫理綱領を策定する際の有用な指針にもなる。

#### 作業療法の倫理原則

作業療法士は、一連の基本的な倫理原則によって形成された道徳的価値観と信念をもって実践する。これらの原則には次のものが含まれる。

- 善行 (Beneficence) - 作業療法サービスを受ける人々の利益のために行動し、日常作業へのエンゲージメントを促進し、参加を妨げるバリアに対処する義務
- 無加害 (Nonmaleficence) - 作業参加のための積極的なリスクテイクを尊重する一方で、作業療法から得られる利益と潜在的な害を天秤にかけることにより「害を与えるな」という原則に応じる
- 自律性 (Autonomy) - 人には本質的かつ無条件の価値があり、作業療法の目標、参加、情報共有に関連する選択について、自己決定する権利を認める
- 正義・公正 (Justice) - 作業療法の実践、研究、教育において、公平、平等、適切に対応し、偏見を避ける必要がある

作業療法における倫理原則の適用において、葛藤が生じることがある（例えば、害を与えないで、個人の自律性を尊重する場合など）。このようなジレンマに対応するには、適切に厳密な倫理的熟慮のプロセスを用いるべきである。それぞれの状況と、作業療法の価値観や信念の中で、倫理的義務を考慮するために必要なのは、省察 (reflection)、批判的思考 (critical thinking)、関係する他者との協働 (collaboration) が必要である。

#### 作業療法の価値観と信念

##### 1. 作業焦点

作業療法士は、人生に価値と意味を与える作業への参加を促進するために、さまざまな場面で個人、集団、コミュニティと共に取り組む。作業療法実践では、本人がしたい、する必

要がある、あるいは期待されている作業へのエンゲージメントを阻むバリアに対処するために、介入法や可能化の方法を使う。作業療法の成果は、参加、健康、幸福 (well-being)、インクルージョンの改善を通して示される。

## 2. 協動的アプローチ

作業療法は、サービスを利用する個人、集団、コミュニティの生物学的、心理学的、社会的、文化的、スピリチュアルな側面を認識し、ホリスティックな視点を用いる。サービスを受ける人々の価値観、好み、参加能力は、作業療法を提供する上で中心となる考慮事項である。作業療法士は選択と主体性の場を提供し、尊厳 (dignity) と尊重 (respect) を促し、パートナーシップとしてのアプローチを行う。相互の信頼関係 (mutual trust) に基づいて関係を構築・維持し、サービス提供では強みに基づく (asset-based) アプローチを用いる。作業療法は、個人を介入と目標に関する意思決定を共有するエキスパートとしてとらえるので、個人の自律性と独自性に価値をおく。

## 3. ケアの義務

作業療法士の基本となる専門職としての責任は、作業療法を受ける人々 (個人、家族、コミュニティ、住民全体) に対するものである。作業療法士には、自らの行為の結果としての怪我や喪失や損害を回避する義務があり、作業療法士のケアする義務に影響を与える倫理的な懸念事項については、声を集めて発言するなど、いかなる事態にも真摯に対応する義務がある。倫理原則の遵守は、あらゆる商業的活動や職場での業務に優先する。作業療法において安全の文化は、サービスを受ける人々とのパートナーシップの中で、リスクを受け入れ、関わり、管理することを通して促進される。

## 4. 人権と作業的公正

作業療法士は健康が人権であることを認め、正義・公正、透明性、説明責任を実践に取り入れる。作業的公正のための権利に基づくアプローチが推進される。次の作業権 (occupational rights) が含まれる。

- 生存、健康、幸福を支えるさまざまな作業に参加することで、住民全体コミュニティ、家族、個人が充実し (flourish)、潜在能力を発揮することができる
- 圧力、強制、脅迫なしに作業を選択する。そのときに、他の人々、生命体、地球に対する責任を認識する。
- 安全、人間としての尊厳や平等を脅かすことなく、必要かつ選択された作業にエンゲージする

作業的公正は、作業療法を提供する人々にも適用され、ケアの義務に対する責任が果たされる一方で、権利が擁護され保護されなければならない。

## 5. 多様性の尊重

作業療法士は対象者の文化的多様性、ライフスタイル、視点を考慮し、人種、能力、国籍、年齢、性別、性指向、宗教、政治的信条、社会的地位による差別をしない。作業療法を受ける個人には、尊重と配慮をもって対応する。人は、それぞれ個人の作業遂行と社会参加において、文化的、社会的、心理的、生物学的、経済的、政治的、精神的要素の組み合わせにおいて、独自であるという認識をもつ。すべての人は相互に関連しており、個人のアイデンティティに基づいて価値をおく生活を送ることができる平等な存在として認められる。

## 6. インテグリティ

作業療法士は常に行動基準を維持し、個人的インテグリティ、正直さ、信頼性、オープンマインド、忠誠を示す。作業療法士は、能力 (competency)、基準、倫理観に導かれ、法律、規制、およびサービスが提供される状況における方針に沿い、公的に最善の利益のために奉仕する。真実で、オープンで、正確なコミュニケーションに責任を持ち、その選択の理由に関して透明性をもって、自らの行動を説明する責任を持つ。作業療法を受ける人からは、サービス開始前にインフォームド・コンセントを得て、適宜更新する。

作業療法士は、サービスを受ける人々に対する基本となる専門職としての責任に基づき、公平な職務遂行と相反する、または相反するとみなされるような利益に基づいて行動しないことを確実にし、特別な配慮から利益を得る可能性のある、または得ると思われる人々に対して義務の立場に立たない。利益相反は、知的、身体的、情緒的、経済的、政治的、キャリアやビジネス上の利害に関連する可能性があり、雇用、コンサルタント契約、謝礼、家族、個人的なネットワークなどの関係のなかで生じる。利益相反には、個人的な金銭的利益のために行われる行為や、個人の仕事と類似する、あるいは競合する性質の仕事を審査したときのアイデアの流用が含まれるが、これらに限定されない。利益相反を避けるために、人間関係の境界を認識し、尊重する。作業療法士は、作業療法サービスの直接の受け手である人々との個人的な関係を控える。

## 7. 守秘義務

作業療法士は全ての個人の守秘義務とプライバシーの権利を尊重する。作業療法士はすべての個人情報を守秘し、プライバシーとインテグリティを維持する。作業療法士は、作業療法の提供において親族や親密な関係の他者が重要であることを認識し、作業療法を受ける人の同意のもと、適宜情報を提供し関与すべきである。

## 8. コンピテンシーと生涯学習

作業療法士は、知識・技能・能力を有するサービスの提供において、独自の判断を行う自律的な専門家である。作業療法士は教育され、自らを律する専門家であり、エビデンスを用いて理性的で説明責任のある意思決定を行う。作業療法士は、専門的な知識・技能・能力の

範囲内でのみ実践し、安全で効果的な作業療法を実践するために必要な能力要件を、作業療法の開始時だけでなく、キャリア全体を通して満たすか、それ以上であることが期待される。作業療法士は、常に最善のエビデンスに基づいて仕事をすることを保証する生涯学習のプロセスを通じて、能力要求の変化に対応することが期待されている。

作業療法士が他の人に作業療法業務を割り当てるのは、その人が必要なレベルの能力とスーパービジョンを受けることができる場合に限られる。どのような状況においても、どのような種類のサービスが提供されるか、どこで仕事が行われるか、誰が作業療法を提供し、誰が受けるかなど、多くの要因に影響される。

## 9. 専門職に対する義務

作業療法士は、倫理的価値観、態度、行動を遵守した実践と行動の基準を策定し、自己規制を可能にする。専門職は、作業療法が健全なプロセスに基づいていることを証明し、国民を安心させるために、モニタリングと説明責任システムを確立する。作業療法士は、健康と幸福を促進するために知識を増やし、エビデンスを生み出す義務がある。作業療法士は、実践と研究においてエビデンスを統合することで、専門職を支える知識基盤の継続的な発展に貢献する。作業療法士は、作業療法教育において学生を指導し、他の作業療法士のコンサルタントを務めることで、自らの知識、技能、能力を共有する。作業療法士は、地域、地区、国、国際的レベルで、一般市民、他の専門機関、政府機関に対し、倫理的に作業療法を推進する。

作業療法士は自らの尊厳、幸福、健康を重視する。そのためには、専門家としての承認、継続的な専門能力開発、自己省察の機会、支援体制、適切な人材配置、健全な管理慣行、適正かつ公正な報酬を特徴とする、ポジティブな実践環境が必要である。

## 10. 地域社会とグローバル社会に対する責任

作業療法は健康だけでなく、教育、労働、社会開発など複数の分野にまたがっている。どの分野においても、作業療法は現在または将来の世代の健康を損なわない方法でサービスを提供するために、資源の利用を促進する義務がある。作業療法士は主要なパートナーと協力し、作業参加を促進し、地域の状況や人々のニーズと関連した社会政策やインフラに影響を与える。作業療法士は、専門職間の協力の必要性を認識し、地域や世界的な視野で他職種の独自の貢献を尊重し、作業療法の貢献は健康と福祉に影響する作業的エンゲージメントに基づくものであることを理解する。